#### ここつう編集委員によるレポート

第23回県民健康調査検討委員会 (2016.6/6)

を傍聴して

### |短い期間でがんが進行

小児甲状腺がん(疑い含む)は、前回から6人増え173 人になった。本格検査(2巡目)でがんと診断された 57 人は、先行検査(1巡目)で、A1判定28人、A2判 定25人、B判定4人であった。今回増えた6人を含む28 人は、先行検査でA1判定(のう胞も結節も認められな い)であり、2~3年の短い期間でがんが進行し手術が 必要になった。報道ステーションでもとりあげた5歳 男児(事故当事)のがんが見つかったことについて 「(放射線の感受性が強い) 5歳以下が発症していな い」ことを根拠に「放射能の影響とは考えにくい」と してきた星北斗座長は、「ひとり出たからといって見 解を変えるつもりはない」と記者の追及に逆ギレしな がら居直った。

#### 結論ありきの会議運営

甲状腺の臨床医である清水一雄委員が、「大人に比 べ子どもの甲状腺がんは進行が早い。」「これからも (理由はわからないが) 甲状腺がんはどんどん増える」 「県外転出などで、今後、県立医大だけでは対応でき なくなる。」と話したことは全く報道されない。

委員会終了後の記者会見では、311甲状腺がん家族 会からの質問、要請に回答していないこと、県立医大 が県民に説明をせずに国内外の学会に論文発表してい ることが明らかにされた。甲状腺がんなどを治療する ため、福島県と県立医大が1千億円をかけ、330床を 有する医療施設が完成することについて、一言の説明 もない。一方的な会議の運営には、県民に寄り添う気 持ちは感じられなかった。

### 真実を明らかにし、県民を被ばくさせるな

「100万人にひとり」と言われるめずらしいがんが、 福島県の30数万人の子どもから173人も見つかった。 チェルノブイリ原発事故後に増えた小児甲状腺がんは、 腫瘍が小さくてもリンパ節や肺転移を起こし進行しや すいと言われる。昨年、県立医大の鈴木眞一教授は、 小児甲状腺がんの手術症例(97例、県立医大で実施し たもの)でも腫瘍の大きさ、リンパ節や肺転移など深 刻な症例が90%を超えていると学会で発表している。

小児甲状腺がんの多発を隠しながら、避難区域の住 民に帰還を強制する福島県は、県民の健康を守る気持 ちは全くない。「学術研究目的のためのデータ提供に 関する検討部会」がスタートし、「個人情報の保護」 や「学術目的」をタテに、さらに検査データを隠すこ とが狙われるなか、マスコミが県の発表垂れ流しの体 たらくのままでは、県民の安全はいつまでたっても置 き去りだ。

甲状腺がんまたは疑いの子ども <b>173</b> 人		
	先行検査	本格検査
甲状腺がん または疑い	i	<b>5 7</b> 人 ※先行検査結果の内訳 (A1:28人 A2:25人 B:4人)
手術を受けた 子ども	102人	3 0人
がん確定	101人 ※良性1人	3 0人
年齢(震災当時)	6歳~18歳	5歳~18歳
性別	男性39人:女性77人	男性25人:女性32人
腫瘍径	5. 1mm~45. 0mm	5.3mm~35.6mm
対象人数	36万8000人	38万1000人
対象者	原発事故当時18歳以下	原発事故当時18歳以下+ 事故後1年間に産まれた子ども
実施人数	300, 476人	267, 769人 (2016年3/31現在)
実施年度	2011年10月~2015年4月	2014年4月~2016年3月

## <がんまたは疑い 市町村別172人内訳>

【国が指定した避難区域等の13市町村】

先行検査2011年度実施

9 人: 伊達市

6人:南相馬市

前回2016年2/15発表から

4 人: 浪江町

本格検査で6人増加

3人:大熊町(1人増)

先行検査で3人増加 ※前回、公表されず、今回、発表された分

2人:川俣町、

1人:川内村、富岡町

0人:飯舘村、広野町、楢葉町、双葉町、葛尾村

【中诵り】

先行検査2012年度実施

42人:郡山市(2人増) 20人:福島市

7人:白河市

二次検査が必要な子ども (B, C判定)

6 人:二本松市、本宮市

先行検査2294人 本格検査2061人

5人:田村市、須賀川市

2 人: 大玉村

1人:西郷村、泉崎村、三春町、石川町、 平田村、棚倉町、桑折町、中島村 鏡石町(1人増)、矢吹町(1人増)、塙町

(1人増)

先行検査2013年度実施

28人:いわき市(2人増)

1人:相馬市

【浜通り】

【会津地方】

先行検査2013年度実施

8人:会津若松市

1人:会津坂下町、猪苗代町、下郷町、湯川村

会津美里町(1人増)

# お母さんの

# 自主避難者への支援打ち切り許さない

ー福島市から山形県に避難中ー

### ●考え抜いて避難を決意

原発事故後、私は国や福島県から避難しろとは言わ れませんでした。自分で情報を集め、自分で考え抜い て避難する決断をしました。将来、子どもから「あの 時、お母さんは私たちより何が大切だったの。どうし て避難させてくれなかったの。」と言われたくないと いう思いが「周囲の人は逃げていないのに」と躊躇す る気持ちを吹き飛ばしました。ちょうどその時に住宅 支援の制度が自主避難者にも適用されるようになりま した。避難区域の指定を受けなくても福島県から避難 することは正当だと認められたのだと思いました。

#### ●2017年3月末で支援打ち切り

その後、アリバイづくりのようないい加減な除染を 進めた福島県が、2017年3月末で、「自主避難者」へ の住宅の無償提供支援は打ち切りと決めました。先月、 私の所にも山形県から住宅の無償提供は来年3月31日 までという通知が来ました。避難生活は並大抵の覚悟 で続けられるほど甘いものではありませんでした。い つも心に重いものを抱え、それでも現実に向き合って 前向きに生きようと努力を続けているのです。

#### ●自主避難者の存在は政府に都合が悪い存在

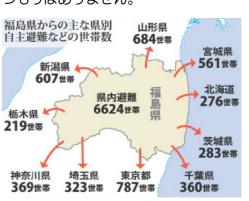
原発事故の責任を逃れている人たちにとって、自主 避難者の存在自体がとても都合が悪いのでしょう。国

や福島県が「安全・安心」と言っていることを聞かず に、信用できないと行動で証明している「生き証人」 だからです。

#### ●増え続ける小児甲状腺がん 福島には帰らない

私自身も昨年がんになり、手術を受けて大変な思い をしました。大人でもがんと向き合うことは想像以上 に辛いことです。「甲状腺がんは予後のいいがんです。 切ればいいんです。」と言った県立医大の鈴木眞一教 授にふざけてんじゃないといってやりたい。「放射能 の影響とは考えにくい」と無責任な発言を繰り返すこ とで、県民に被ばくを強いています。

私は、自分が生きている限り、福島に子どもを帰す つもりはありません。



「自主避難者 無 償提供終了、転 居あてなく7割」 (3/25毎日新聞)

ひさくんによる スタッフ

# 火曜日担当

# 杉井 吉彦 医師 国分寺市 本町クリニック院長

参院選挙 戦争、原発、オリンピック反対の

鈴木たつおさん (弁護士) を応援



※7/3の応援演説内容を紹介。

福島市のふくしま共同診療所に、週一度通って診療し の政党を作ろう」それが私の現在の最も強い願いです。 ています。

アフガニスタン、カンボジアの難民キャンプでそれぞ れ半年以上、国際赤十字(赤新月社)の難民救援病院 の医師として働いた経験があります。現在も仮設住宅 などで暮らしている9万人の避難者、子どもの甲状腺が ん多発、2000人を超える震災関連死という現在の福島 の過酷な状況に対して、多くの仲間とともに、全力で 診療に携わっています。

34年間の医師としての経験と3.11の福島での経験か ら、「本当の医療とは何か」という課題に直面しなが ら医療を行ってきました。本当の医療とは、社会全体 を変えて、お年寄りや子供たちにもっとも手厚く対応 し、全ての働く人々の健康を守りぬくことです。医療・ 福祉を営利とすることが、そもそもあってはならない ことなのです。そのためには政治を変えていかなけれ ばならない。福島の教訓・健康被害を無視して進む、 原発の再稼働・原発輸出は許せません。戦死者を作り 出し、医療を戦争の道具とする道を開く「戦争法」に 絶対反対です。労働者、庶民のための医療・看護・福 私は東京の国分寺で24年間診療しながら、3年前から 祉を本気になって作り上げるためにも「新しい労働者